

2018年8月8日

2018年FIA-F4選手権シリーズ第4大会（第7戦／第8戦） 参戦報告書

HFDP事務局 阿部 正和

約2ヶ月の長いインターバルを経て、2018年FIA-F4選手権シリーズ第4大会（第7戦、第8戦）が8月4日から5日にかけて、静岡県・富士スピードウェイで開催されました。このレースに、Honda フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト（HFDP）ドライバーとして#5 角田裕毅（18歳）、#6 名取鉄平（17歳）、SRS スカラシップとして#7 大滝拓也（23歳）、#8 佐藤蓮（17歳）の4名が参加した。HFDPではシーズン半ばの第4大会に向け、車両とメンテナンススタッフをシャッフルし、各選手はシリーズ前半と異なる体制でこのレースに臨んだ。

角田と名取が連続表彰台。角田はランキングトップを守る。

■公式予選（30分間）：天候/晴れ 路面/ドライ



異常気象とも言われる猛暑となった8月4日土曜日、早朝から太陽が照りつける中、午前8時から30分間にわたって行われた公式予選には34台が出走した。気温はすでに28度に達し、厳しいコンディションである。

グリーンシグナルとともに各車一斉にコースイン、まず#7 大滝が1分48秒481を記録すると、それを狙って他車のタイムアタックが始まった。タイヤが完全に暖まった4周目頃からタイムアタックが本格化し、タイムが伸びない#7 大滝は沈み、#81 菅波選手、#1 小高選手、#98 石坂選手らが上位に進出して#6 名取がそれに続くという展開となる。

セッション終了直前、#6 名取が1分45秒493を記録してトップに進出、ベストタイム争いに決着をつけた。この結果第7戦のポールポジションは#6 名取のものとなり、セッション終盤にタイムを詰めてき#5 角田が4番手につけ、伸び悩んだ#7 大滝は10番手、#8 佐藤は12番手でセッションを終えた。

セカンドベストタイムでも#6 名取はトップで、2連続ポールポジションを獲得、#5 角田も2戦続けて4番手ポジションにつけた。以下、#7 大滝は第7戦で10番手、第8戦で8番手、#8 佐藤は第7戦、第8戦とも12番手となった。



第7戦公式予選結果

予選1位 #6 名取 鉄平 1分45秒493
予選4位 #5 角田 裕毅 1分45秒637
予選10位 #7 大滝 拓也 1分45秒995
予選12位 #8 佐藤 蓮 1分46秒137

第8戦公式予選結果（タイムアタックのセカンドタイム順に決定）

予選1位 #6 名取 鉄平 1分45秒618
予選4位 #5 角田 裕毅 1分45秒712
予選8位 #7 大滝 拓也 1分46秒032
予選12位 #8 佐藤 蓮 1分46秒167

■第7戦決勝レース（15周）：天候/晴れ 路面/ドライ



4日午後1時25分からシリーズ第7戦決勝レースが開催された。

ポールポジションの名取はうまく加速して先頭で第1コーナーに進入した。しかしイン側を開けるラインを取ったところ、後続の#1 小高選手が飛び込み先行した。その後方では#5 角田が一つ順位を上げ#6 名取に次ぐ3番手でレースを始めた。

2周目、名取と角田が2番手を争ったスキに、4番手を走っていた#81 菅波選手が2番手へすり抜け、角田は3番手を守ったものの、名取は#16 澤田選手に追い抜かれ5番手にまで順位を下げた。一方10番手からスタートした#7 大滝はうまくスタートダッシュを決めて1周目を8番手で終え、4周目には7番手へと進出した。#6 名取は5周目には前走車を追い抜いて4番手へ上がり再び角田の背後に続くと、上位が争っているうちに追いつき、4台でトップ集団を形成した。中団では大滝が順位を上下させながら周囲の車両と激しく争った。



12周目、角田は前を走る#81 菅波選手に攻めかかり、2番手へ抜け出した。名取もこの攻防のスキを突いて角田に続く3番手へ進出。しかし角田、名取、#81 菅波選手の2番手争いはストレートで3ワイドに成りながら続き、13周目には#81 菅波選手が角田、名取を交わして2番手を取り戻すなどデッドヒートとなった。最終ラップ、角田はストレートで#81 菅波選手のアウトに並んで第1コーナーへ進入、前に出た。また名取はアウト側から攻めかかり、コココーラコーナーでアウト側から角田に続く3番手へ抜け出した。その後チェッカーフラッグが振り下ろされ、角田は2位、名取は3位でレースを終えた。大滝は8位、佐藤は格闘の過程で接触しながら10位でレースをフィニッシュし、HHPDの選手は4人揃ってシリーズポイントを獲得した。

【 FIA-F4 選手権シリーズ第7戦・レース結果 】

#5 角田 裕毅 決勝 2位 (26分59秒287 ベストタイム 1分46秒758/レース中のファステストラップ)
#6 名取 鉄平 決勝 3位 (26分59秒606 ベストタイム 1分46秒785)
#7 大滝 拓也 決勝 8位 (27分06秒480 ベストタイム 1分47秒021)
#8 佐藤 蓮 決勝 10位 (27分10秒851 ベストタイム 1分47秒102)

■第8戦決勝レース (15周) : 天候/晴れ 路面/ドライ



8月5日(日)午前8時にフォーメーションラップが始まった。早朝のレースとあって前日に比較すると涼しく感じられる空気の中でスタートが切られた。ポールポジションの#6名取はうまく加速して首位を守ったまま第1コーナーを抜けた。後方では#5角田もスタートポジションの4番手を守り、#7大滝は6番手へ順位を上げてレースを始めた。

名取は後方から#1小高選手に詰め寄られるがうまくブロックして首位を守り、角田は3周目のコカコーラコーナー立ち上がりで前走車をオーバーテイクして3番手へ順位を上げた。3番手となった角田は5周目のダンロップコーナーで前を走る#1小高選手がホイールをロックさせたスキに順位を入れ替え2番手に抜け出し、名取とHFDPの1-2体制を築いた。

その後方では第2集団の格闘に取り込まれた大滝が徐々に順位を落とし、入れ替わるように#8佐藤が順位を上げてくる。



名取は首位を守るが後続を引き離すことはできず上位4台がひとかたまりになって格闘に入った。角田は名取をかわして首位に出ようと様子をうかがうがオーバーテイクには至らず、逆に10周目の第1コーナーで後方から#1小高選手のアタックを受けて2番手を明け渡し3番手に後退した。



その後上位5台が1グループになって激しい格闘が続いたが11周を終えたストレートで名取のスリップストリームに#1小高選手が入り、12周目に入る第1コーナー手前で#1小高選手がトップに抜け出した。これで名取は角田を従える2番手へ後退、角田は後方から#98石坂選手の激しいアタックを受けながら自分のポジションを守る展開となった。

最終ラップ、角田は並びかかってきた#98石坂選手とコカコーラコーナー立ち上がりで接触したが3番手のポジションを守り、そのまま3位でフィニッシュした。名取は2位入賞を遂げ第7戦に引き続き表彰台に上がり、中団から追い上げてきた佐藤は順位が繰り上がって6位に入賞、選手権ポイントを獲得した。

前大会までの角田の連勝は途絶えたが着実にポイントを重ねたためポイントランキング首位は守った。しかしこれまでランキング 2 番手にいた名取は 3 番手へ後退した。2 戦連続でポイントを獲得した佐藤は 8 番手から 7 番手へポジションを上げ、大滝は 12 番手を維持した。



【 FIA-F4 選手権シリーズ第 8 戦・レース結果 】

#6 名取 鉄平 決勝 2 位 (26 分 57 秒 015 ベストタイム 1 分 46 秒 984)

#5 角田 裕毅 決勝 3 位 (26 分 58 秒 288 ベストタイム 1 分 46 秒 882)

#8 佐藤 蓮 決勝 6 位 (26 分 59 秒 636 ベストタイム 1 分 46 秒 819)

#7 大滝 拓也 決勝 11 位 (27 分 04 秒 389 ベストタイム 1 分 46 秒 821)

■2017FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング (第 4 大会終了時点)

1 位 角田 裕毅 158 点

3 位 名取 鉄平 115 点

7 位 佐藤 蓮 41 点

12 位 大滝 拓也 19 点

(1 位 25 点、2 位 18 点、3 位 15 点、4 位 12 点、5 位 10 点、6 位 8 点、7 位 6 点、8 位 4 点、9 位 2 点、10 位 1 点、)

■2017FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (第 2 大会終了時点。各チーム最上位のみ計上)

1 位 HFDP 186 点

●ドライバーズコメント：#5 HFDP/SRS/コチラレーシング 角田 裕毅



予選はミスもあって満足いくポジションではないですけど優勝は狙える位置で、練習から比べたら悪くはない感じで走れました。第7戦の決勝は1周目の13コーナーで強引に攻めました。無理する必要はなかったと注意されましたが、あそこで行かなければパスできないと思っていたので自分としては後悔はしていません。その後は前に追いついていってトップの選手に仕掛けるタイミングを狙っていましたが、大事なときに自分でミスをしてしまい前に出られませんでした。その後は気持ちを2位狙いに切り替えて集中して後続をpushしきりました。第8戦は、前日のレース後阿部監督より名取鉄平への強引な攻めに対して「ちょっとやりすぎだ」と注意を受けたことが頭に浮かび2番手に上がったときに前を走っている鉄平を抜いてはいけないのかなと思いこんでしまい、敢えて前に出ずにペースに合わせていたら後続に追いつかれてしまいました。その後はノーチャンスでそのまま終わり、後悔が大きく残るレースになってしまいました。次からは自分で思うようにガツガツ行くつもりです。



●ドライバーズコメント：#6 HFDP/SRS/コチラレーシング 名取 鉄平



予選に関しては今までテストやってきたことの結果が出て、良いアタックができました。でも第7戦決勝は、スタートの蹴り出しは悪くなかったのでその勢いで行けると過信して油断してしまい1コーナーでの位置取りが悪くてオーバーテイクされてしまいました。そこから悪い流れが始まって中盤まで続いてしまい、途中1コーナーでイエローフラッグが出てオーバーテイクが出来ない状況にもなって思うような展開になりませんでした。そんな状態でなんとか表彰台に上がってポイントも獲れたのは良かったけれど、一番目指していた優勝には届かなかったのが残念です。第8戦も詰めが甘かったです。第7戦より良かった面もありましたが悪いところも出てしまいました。特に後半、ラスト5周までずっとトップを守っていたのに最終コーナーのライン取りが悪くて間隔を詰められてしまいオーバーテイクされてしまったのは反省しています。2戦続けてポイントが獲れたのは良かったけど、優勝しなければ次のステップはないと思っています。



●ドライバーズコメント：#7 SRS/コチラレーシング 大滝 拓也



単独で走る限りトップ3には行ける自信がありました。富士は特に間合いとスリップが大事なのに上手くスリップも使えなかったり、前にペースの遅い選手がいるとき一緒に走ってしまったりして予選が上手くいきませんでした。自分では冷静なつもりなんです。今回練習から心拍数を計ってみたら180を超えていてやはり冷静ではないんだなと自覚しました。第7戦

は、ぶつからないように追いつけることを心がけました。レース半ばのAコーナーで押し出されて順位が下がったけどペースは良かったと思います。第8戦でもペースはキープできたと思うんですが、抜きつ抜かれつやっている間に上位から引き離されてしまうというパターンの繰り返しになってしまいました。ペースを落とさずに相手と争って前へ行くというのがうまくいかないんです。もうぼくは、同じ言い訳をされていられる立場ではないので、次のレースに向けて頭を切り換えます。



●ドライバーズコメント：#8 SRS/コチラレーシング 佐藤 蓮



予選は自分のベストセクターをまとめられず、スリップストリームもうまく使えずタイムが上がりませんでした。富士は、コンマ1、コンマ2違うだけで順位が大きく変わってしまうので、順位が大きく沈んでしまいました。第7戦は、ペースが良くて追い上げられたんですが、オーバーテイクするのに苦戦したうえ、最後

の方で相手の車両にヒットしてしまって順位を落としてしまいました。第8戦はスタートを無難に決めて、ペースも良かったので落ち着いて順位を上げていけました。前の混戦もうまく抜け出すことができました。予選でもっと前に行ければトップ争いに加われるかなと思うので、それを課題にして次のレースへ臨みます。

